

別記第 1 号様式（第 6 条関係）

令和 6 年 8 月 2 9 日

（宛先） 亀岡市長

住所（所在地） 亀岡市追分町谷筋 37-21 ふらっと HOUSE
 団 体 名 特定非営利活動法人プロジェクト保津川
 申請者 代表者役職 代表理事
 代表者氏名 原田 禎夫
 電話番号

ふるさと亀岡まちづくり応援交付金応援希望団体登録申請書

応援希望団体として登録を希望するため、ふるさと亀岡まちづくり応援交付金交付要綱第 6 条の規定により関係書類を添えて申請します。

ふ り が な 団 体 名	とくていひえいりかつどうほうじんぷろじえくとほづがわ 特定非営利活動法人プロジェクト保津川
主たる事務所	〒621-0804 京都府亀岡市追分町谷筋 37-21 ふらっと HOUSE 2 階
担当者連絡先	ふりがな はらだ さだお 氏 名 原田 禎夫
ホームページ等	https://hozugawa.org
団体設立年月日	平成 1 9 年 7 月 1 4 日
活 動 目 的	各種団体・企業・行政とのパートナーシップにもとづいて保津川の環境保全に取り組み、循環型社会の実現に貢献する。
地 域 の 課 題	亀岡市内を流れる保津川（桂川）は、依然としてごみの大量漂着や水質悪化など河川環境の悪化が深刻化し、保津川下りなど観光産業にも大きな影響を与えるなど、環境保全が大きな課題となっている。特に、河川ごみの多くを占める使い捨てプラスチックの発生抑制は世界的な課題でもあり、ライフスタイルの根本的な転換が求められている。また、筏流しなど水運文化の伝承やアユ漁をはじめとした内水面漁業の振興など、川的生活文化の伝承が大きな課題となっている。
事 業 概 要	保津川の自然と文化を次の世代に受け継ぐために、以下の活

	動に取り組む。 ①清掃活動、河川ごみのパトロールと調査活動 ②筏復活プロジェクト ③環境教室（伝統漁法の体験プログラムなど）
登 録 要 件	☒ ふるさと亀岡まちづくり応援交付金交付要綱第6条に規定する応援希望団体の登録要件をすべて満たしている
初年度目標寄附額	500,000円
希望登録期間	令和7年 ～ 令和9年

応援希望団体 事業計画書

●事業名	美しい保津川を未来へ～保津川クリーン作戦
●取り組みたい地域の課題や現状	亀岡市内を流れる保津川（桂川）は、ごみの大量漂着や水質悪化など河川環境の悪化が深刻化し、その環境保全が大きな課題となっている。こうした中、2018年12月に発表された「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」をふまえて、2021年1月より全国初のレジ袋使用禁止条例が施行されるなど、亀岡市における使い捨てプラスチックごみ削減の取り組みは国内外から大きな注目を集めている。また、小学校から大学に至るまで、亀岡市内では熱心に環境教育が展開されており、環境先進都市の実現に向けて着実に若い世代の市民が育っている。 しかし、レジ袋以外の使い捨てプラスチックの削減や、廃棄物全般の削減は依然として大きな課題であり、ライフスタイルの根本的な転換が求められている。保津川の景観を守り、豊かな亀岡の自然を次世代に受け継いでいくためには、地域住民はじめ、さまざまなセクターの協働的取り組みが欠かせない。
●これまでの団体の取り組みの紹介	<u>保津川および支流域でのクリーン作戦</u> 毎月第3日曜日に開催、2024年6月で170回目を迎えた（このほか、2・7月は環境教室を開催、8月は花火大会ボランティアに参加）。一般参加者に加え、地元自治会や企業との協力により実施しており、1回あたりの参加者は40～300名、年間約1,000名の参加者がある。 <u>環境教室</u> 毎年夏季に親子向けに保津川で伝統漁法による鮎狩りや川流れなどの川の恵みの豊かさや、安全な川遊びを体感できる「まるごと川遊び」を開催し、保津川の魅力を広く発信するイベントを開催している。2024年度は41名の参加があった。また、冬季には、猪や鹿などのジビエ料理を体験できる「ジビエパーティー」を開催し、山の恵みを実感するとともに、獣害など環境の変化を考えるイベント通じて、山と川のつながりやそこで生じている問題について広く発信している（する。2023年度は20名の参加があった。 <u>保津川筏復活プロジェクト</u> 2007年より毎年開催し、半世紀前に途絶えた筏流しの復活に取り組む。2016年に京都府で開催された第40回全国育樹祭では、京都府緑化功労者等表彰を受賞した。現在は竹筏の復活に取り組んでいる。 <u>河川ごみ調査事業</u> 日本初のオンラインごみマップを開発し、市民参加型の河川ごみの調査に取り組むほか、全国の行政機関から河川ごみの調査業務を受託して調査を実施している。また、全国川ごみネットワークなどと連携した河川ごみ調査にも取り組み、プラスチックごみ問題の解決に向けた

	政策提言にも取り組んできた。
●今回応援を希望する事業の目的	本事業では、毎月第3日曜日を中心に実施している保津川クリーン作戦や、夏と冬に実施している環境教室の取り組みを強化し、保津川の環境問題に関心を持つ人々が集う機会を提供し、支流や上流地域へと清掃活動の輪を広げていくことをめざす。
事業の概要	毎月第3日曜日に「保津川クリーン作戦」として清掃活動を実施するとともに、参加者とともに「水辺のごみ見つけ！」（全国水辺のごみ調査）を実施し、河川ごみの定量的な調査を実施する。得られた成果は、全国川ごみネットワークを通じて、全国の河川ごみの実態把握に役立てるとともに、参加者にもウェブサイト等を通じてデータをフィードバックすることで、河川ごみについて考える機会を提供する。 「環境教室」は、夏季（7月ごろ）に「まると川遊び」を、冬季（2月ごろ）に「ジビエパーティー」を開催する。これらの事業では、清掃活動だけでは保津川の環境問題を訴求しにくい、小さな子供のいる家庭などを対象として実施し、山や川の恵みなど亀岡の自然の豊かさを実感することを通じて、環境保全の重要性を考える機会とし、環境問題への関心層の拡大や清掃ボランティアへの参加のきっかけづくりとなることをめざす。 各事業の予告や結果報告は、ウェブサイトのほか各種SNSでも積極的に発信し、関心層の拡大をはかることで、保津川の環境問題に関心を持つ市民の多様な参加を実現する。これらを通じて、コロナ禍で低調になっていた流域の清掃活動の活性化をめざす。 また、これまで実施してきた環境フェスティバルの発展的な取り組みとして、一連の取り組みを「保津川の日」（毎年3月第1日曜日）において展示し、市民の河川ごみに対する関心を高める。
●事業によって期待される効果・変化	・ 「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」の趣旨が広く市民に浸透する。 ・ 河川ごみの現状に対する理解が深まり、特に使い捨てプラスチックの発生抑制に向けた市民の自発的な取り組みが広く行われるようになる。 保津川流域の環境保全の重要性が市民に理解される。特に、深刻な河川ごみが減少に転じる。
●事業実施体制	全体統括：代表理事 原田禎夫、副代表 豊田知八 理事会にて、企画・運営を決定し、事務局スタッフおよびボランティアスタッフとともに各種事業を実施する。 ➤ イベント開催時は当団体の団体会員（市内外の企業や自治会等）、行政機関（京都府、亀岡市）と緊密に連携して事業を実施する。理事を中心とした当団体スタッフが中心となり、市内各自治会や企業と連携して、清掃活動を実施する。 ➤ なお、回収したごみの処理は、京都府南丹土木事務所、亀岡市環境政策課と協議の上、適切に処理する。

	「保津川の日」の実施にあたっては、当団体も会員である川と海つながり共創プロジェクトと連携して実施する。
事業実施時協力者数	最大 15 名程度（ほか、ボランティアとして年間 1000 人の参加を目標とする）
●情報発信方法 （寄附の獲得方法）	・ ウェブサイトおよび SNS により毎月 2 回程度、各種情報を発信するとともに、寄付募集の呼びかけを行う。 ・ イベント開催時に参加者への呼びかけとパンフレットの配布を通じて寄附の呼びかけを行う。 市内外での講演活動の際に、寄付の呼びかけを行う。

収 支 計 画 書

団体名 特定非営利活動法人プロジェクト保津川

〔収入〕

項 目	金額(円)	内訳(数量・単価など)
まちづくり応援交付金	350,000	※初年度目標寄附額の7割になります。 ※対象経費の支出合計以下の金額になります。
事業収入	100,000	
その他補助金		
その他収入	842,200	会費、その他寄付金
合計額	1,292,200	※支出総額と同額になります。

〔支出〕

項 目	金額(円)		内訳(数量・単価など)
	対象経費	対象外経費	
報償費	100,000		環境教室講師謝礼 20000円×5人
消耗品費	50,000		
通信運搬費	100,800	158,400	イベント告知送料(84円×100通×12回)、ウェブサイトサーバー管理費(12000円×12月)
保険料	20,000		イベント保険
賃借料	60,000		軽トラック(3000円×20回)
地代家賃	-	250,000	事務所家賃(光熱水費含む、年額)
手数料	3,000		各種支払手数料
人件費	50,000	500,000	事務局人件費(イベント補助は対象経費、役員分は対象外)
支出合計	383,800	908,400	
総合計	1,292,200		※収入総額と同額になります。

※記入欄については必要に応じて追加してください。